

令和7年度第2回 安城市環境審議会議事録要旨

日 時	令和7年12月4日（木）午後2時～3時	
場 所	安城市役所本庁舎3階 第10会議室	
出席者	委 員	杉山会長、岩月副会長、飯尾委員、小林委員、浅田委員、片岡委員、伊藤委員、竹本委員、棚橋委員、土井委員、野村委員、久恒委員、西野委員、石原委員、久米委員、坂藤委員 16名
	事務局	環境部長、環境都市推進課長、ごみ資源循環課長、環境都市推進課カーボンニュートラル推進室長、ごみ資源循環課主幹、環境都市推進課長補佐、ごみ資源循環課長補佐、環境都市推進課カーボンニュートラル推進室温暖化対策係長、清掃事業所長、クリーンセンター所長、環境都市推進課職員、ごみ資源循環課職員
次 第	1 会長あいさつ 2 議 題 第2次安城市環境基本計画改定 パブリックコメント案について 3 その他	
資 料	・【資料1】第2次安城市環境基本計画改定 パブリックコメント案について ・【資料2】第2次安城市環境基本計画令和8年3月改定版 パブリックコメント案 ・【資料3】第2次安城市環境基本計画 こども版案	

1 会長あいさつ

2 議 題

第2次安城市環境基本計画改定 パブリックコメント案について

<説明事項>

【事務局】

- ・【資料1】第2次安城市環境基本計画改定 パブリックコメント案について
- ・【資料2】第2次安城市環境基本計画令和8年3月改定版 パブリックコメント案
- ・【資料3】第2次安城市環境基本計画 こども版案

<報告に関する質問・意見>

【杉山会長】こども版の活用方法について、エコきのの環境学習講座でも活用するというお話をあったが、現時点での利用者数・講座数等はどのくらいか。

【事務局】年間で施設利用者数が2万人ほど、講座数が100回以上あり講座参加者数は400人程度である。

【土井委員】ちょうど子どもがもらってきたチラシでどの講座に参加しようと話していたところなので、先ほどのご質問とご説明はたいへん参考になった。

【小林委員】「地球温暖化対策の理想とするまちのすがた」部分の修正はかなりの転換だと私は受け止めている。理想とするまちでは暮らしの快適さはそのままにという文言が追加されている。こういうメッセージを強く出すことで、市民にとってこれまでいいんだと安心感を持ってもらいつつ、脱炭素に向かっていくという強いメッセージが最初から出されている。これから市民の方にまた策定等を進めていく中で、伝え方を工夫しながら進めていくということが大事だというふうに受け止めている。

【飯尾委員】パブリックコメントの募集をどのように集めるかについて詳しく教えていただきたい。

【事務局】資料1でチラシ配布と記載があるように、こども版以外にチラシを作成している。チラシを子どもたちが持っているタブレットに配信し、記載している二次元コードから、こども版が載っている市公式ウェブサイトに飛ぶことができる。

【飯尾委員】ある程度大人が子どもたちに読むように促す必要があるということか。

【事務局】先生等の働きかけも必要かと思う。

【飯尾委員】基本的に興味を持つところからだと思う。多くのパブリックコメントは、意見を出す人は一緒である。これは安城だけの問題ではない。ただ、このこども版はすごくいい取り組みである。理想とするまちとあるが、この理想とするまちに生きるのは子どもで、その理想を実現しつつ、そこで暮らしていくのも子どもである。今興味を持っていない子ども、親も興味を持っていない、先生も温度差があると思う。そういう人たちにどう伝えるか。

子どもたちは生活経験も人生経験も短いので、仕方ないと思うが、そういう子どもたちにあなた方の未来を生きる、環境とかエコとか別にして。私は環境っていうのは「暮らしの入れ物」だと常々思っている。理想とするまちっていうのは、理想だけで終わってはいけない。そこに必ず住むわけなので、子どもたちが意見を出せるような作り込み、行き渡らせる方法があるとよい。ものすごく立派なものを作られている。この案でもわかりやすくなっている。

ただし、読んでもらって意見を出してもらえなかつたでは何の意味もないと言って

もいいぐらい。そのため、せっかく子どもから意見を集めるなら、もう少し作った後のことをお考えになっていただきたいというのが、正直なところである。

【事務局】こども版は今回のパブリックコメントだけの利用で終わる予定ではない。市内の小学校4年生は総合的学習などで環境についての学びをやっているので、そこでの活用を考えている。またエコきちへ来てもらう子どもたちの目に触れてもらうような活用を考えている。

【飯尾委員】エコきちに興味をもって行く子どもは大丈夫である。

【坂藤委員】パブリックコメントへのモチベーションを上げるには、過去実際こういう意見があつて、こういう変更があったという事例があると子どもさんも大人の方もモチベーションになると思うが、何か代表的なものがあるか。過去の事例がなく、広く意見がほしい、意識を上げたいというのであれば、こういうところなら変えられると思っているとかこういう建設的なものを求めているというようなガイドラインがあるといいのではないか。

【事務局】過去の事例を調べてガイドライン的なものを示すことができたらよい。

【石原委員】これから安城市を創って生きてもらう子どもたちが関心を持ってもらえるきっかけになるので、こども版を作ることはすごく良い。そして今、おっしゃったように、パブリックコメントに参加できるということを子どもたちにとっては勉強になる。市民の言葉が反映されるかも知れないということがわかるとすごくいいなと思う。

資料では細かいところになるが、資料3の安城市が取り組む12のチャレンジが四角で1つずつ囲まれているせいで右にいったり左に行ったりと分かりづらく感じたため、表記の仕方をもっと工夫するとよい。

【事務局】表記についてはいただいたご意見を含め検討していきたい。

【坂藤委員】意見の数がたくさん集まってほしいと思っているのか、ちょうどいいくらいを希望しているのか。募集の手段を見ると回答しにくいと思っていて、もしLINEで広く募集するのも可能だが、多く集まる可能性がある。もちろんAIを使えば集計はうまくやれると思うが、本音としてどれくらいを想定しているか。

【事務局】昨年度行った「安城市ゼロカーボンシティ推進戦略」のパブリックコメントでは80件程度意見が提出された。他の計画では多いところだと100件を超える。昨年度同様の80件程度になるのではないかと想定している。

【坂藤委員】 提出方法の1つである「あいち電子申請・届出システム」が使いにくく個人的に思っている。

【事務局】 こども版についてはアンケートフォームで回答できるようにしている。

【坂藤委員】 また、回答も一対一対応で行っていて透明性は高い一方、すごく手間がかかる。グルーピングして回答できるようにしてもいいと感じている。

【小林委員】 こども版のパブリックコメントをどうやって子どもに聞くのか。パブリックコメントという用語を使うのか。

【事務局】 作成するチラシでは「意見募集」と記載している。

【小林委員】 意見募集も抵抗がある。意見をくださいというような表現が良いと思う。

【事務局】 すでに学校教育課を通して子どもたちに配信を行っているため、対応が難しい。

【小林委員】 ただ、配慮はしていることは分かった。もう1点、こども版の1ページ目に記載されている「ともに育む・未来をつくる 安城の eco チャレンジ」という言葉はどこから来たのか。本編にはどこにもないがどこから来たのか。

【事務局】 第9次安城市総合計画から引用をした。

【小林委員】 私としては本編の内容からぶれてしまうのではないか。このキャッチフレーズはよいが、この計画に対して、子どもから声を聞きたいということなので、チャレンジは何をチャレンジするのとか、どんな未来を作るのとか。何を聞きたいのか分からなくなるのではないか。

何を聞きたいのかを伝える必要がある。何を聞きたいかということを伝えているページが4ページ中にどこにもない。どういう中身にすると皆さん協力してくれるかを聞かなきゃいけないのに、この資料の出来栄えはどうですかという聞き方になっている。取り組む内容について、これから取り組んでくれますか、これを取り組めば安城市的素晴らしい未来が来るかもしれないねとう思ってくれるかとか。この資料を出すだけでは、僕は伝わらないと思う。

【飯尾委員】 確かに何を聞きたいか、何を言って欲しいのかが大切である。

【岩月副会長】チラシの方で小林委員の何を聞きたいのかっていうのはちゃんと伝えた上で、こども版の意見を求めなければいけない。これ自体に何を聞きたいのかを入れるのではなく、チラシにそういうメッセージがないとどうやって読んでよいかが分からぬ。例えば、みんなでチャレンジできることの項目がいくつもあるが、質問の仕方としては、「みんなでチャレンジできること書いてあるけど他に何かない」のように、具体的に中身のところで何を聞きたいのかっていうメッセージが現状分からぬ。

【飯尾委員】読んで分かったかという意見でよいのか。あえてレベルと言わせてもらうが、例えば、みんなでチャレンジできることで僕やってみたいというそのレベルでは意見もらったってしようがない。やりたくない、分からないという意見をもらってもしようがないし、整合性がない。

ものすごくいいことだから意見が出ると思う。これをつくることが画期的だからこそ、初回に成功させたいからこういう意見が出るのではないか。先ほども申し上げたが、理想のまちという大テーマがある。理想のまちを作り、生きるのは子どもたちというスタンスで意見をもらった方がよい。今回はしょうがないにしても、今行政はこれだけのことをやりました。それに対してとってもいいものできたねという感想は絶対子どもからは出されない。最初は先生を通して、チャレンジした人がこれだけいました的なアンケートでもよい。最初はそれでもよいがもう1回やるべきだと思う。

本来だったら最初から子どもにできることを聞くべきだと思う。行政の施策に対する市民の協力で環境は変わりません。未来は変わりません。こういう政策を作ったから協力しなさいというスタンスではなく、市民が積極的にこういうことをやりたいって言ってくれるような作り込みが必要である。子どもにだったら理想的なことができるはずだと思う。こういう未来で住みたいっていう絵を描いてもらってそのためにはどうしたらいいのか、君たちは何ができるのか。行政用語で言えばバックキャスティングである。せっかくですから、そういう機会が次あればいいなと思う。

最初から行政の私達はこういうチャレンジします。あなたたちはどう思いますか、どれだけここに参加できますか、どれだけ理解できますかみたいな話だったら、機会がもったいない。子どもと対峙して、子どもを真ん中に考えて安城市の未来とか、この基本計画作りっていうのをやっていただけたらなと思う。

【小林委員】こども版はまだ修正が可能か。

【事務局】可能である。

【小林委員】やはり文章が難しい。子どもたちにとって長い。例えば、安城市の12のチャレンジで、「自動車や工場などから出る排ガスを減らします。」とあるが、子どもにとってはどうでもいい話である。取り組みとしてはいいが。

また、「省エネルギーに取り組みます」とあるが、省エネルギーという言葉は、子どもにとってどう受け取られるか。中学生はこの語句でよいが、小学生にとっては分からぬ。その下の「電気自動車などを増やします。車をなるべく使わないようにします。」は伝わらないと思う。子どもが理解する言葉で短くしてほしい。

「ごみの量を減らします。」はごみを出しませんでいいかもしない。減らしますは曖昧な言葉であるため、伝わらないと思う。小学4年生に直接聞いてもいいし、すべきだと考えている。せっかく安城市の子どもたちに聞くわけなので、もう少し考えていただきたい。

【事務局】安城市が行う取り組みの文言については検討させていただく。

【淺田委員】文言が難しいと感じる。みんなでチャレンジできることを見ると、子どもたちからは「あんくるバスは家の近く通っていないよ」とか「エコきちは北の方にあるから知らないよ」というのが出てきてしまうのではないか。そのため、レ点をつけるようなチャレンジに入れるのはどうかと思う。誰でも答えられるような言葉、答えやすいような言葉にした方がいいと思う。4年生以上であれば伝わるが1年生では全く伝わらない。

【事務局】小学4年生から中学3年生までを推奨年齢としているが、低学年が読むことも想定している。漢字にはルビを振るが、文言については一度検討する。

【坂藤委員】こども版のパブリックコメントは選択肢を用意するという話だったが、どういう選択肢を用意しているか。

【事務局】メールアドレスが不要のアンケート形式ではあるが、自由記述できるようになっている。

【坂藤委員】私はこちらの方が良いと感じる。選択肢だけだと小学生は回答しやすいが、中学生にとっては物足りなく感じる。小学生と中学生それぞれ回答フォームがあつてもよいかと思う。

【事務局】中学生は場合によって本編に対するパブリックコメントを実施できるようウェブサイト上では対応している。

【杉山会長】こども版について意見がたくさん出たので、事務局の方で修正をしていただく方向でよいか。

【事務局】よい。

【杉山会長】修正した案については審議会委員に提示していただけるか。

【事務局】パブリックコメントが開始する12月15日までにご意見を踏まえ検討・修正し、提示させていただく。

【杉山会長】今回に限らずいろいろとパブリックコメントをされているが、町内でも非常に重要なことをパブリックコメントで聞いていたということを知らない町民が多くいる。高齢者からはパブリックコメントという言葉 자체難しいが、パブリックコメントを行って意見を聞いていることを安城市民にわかりやすく発信してほしいと願っている。

<総括>

【小林委員】基本計画案のまとめは大変難しく、どのように市民に伝えるかはどの自治体も課題となっている。特に今回は子ども向けということで、私が関係する自治体では子どもに意見を聞くということは初めての機会である。そのため、本音をきっちり言ってもらえるような配慮をしてほしい。先ほども申し上げたが、ごみを少なくするとごみを出さないとは意味が全く違うことである。ごみを出さない、ごみをゼロにするっていうことを一緒に掲げて、できるだけ出さないというメッセージを送るのか、今より少しやってくださいというメッセージを送るのか、だいぶ伝え方が違ってくる。また、誰が田んぼや畑を守るのか。短い言葉であるからこそ、大切に言葉を選んで作っていくことが大切なことだと私は思っている。

こども版を再度作り上げていくときに、委員の皆さんをはじめ、パブリックコメントの意見が上手に反映され、今後活用できるようにしてほしい。たくさん意見が出て大変だと思うが、いい計画になることを願っている。

【飯尾委員】スタンスとして教える立場ではなく、伝える立場になってほしい。こども版を作成することが安城市にとって最初の取り組みだから意見が出ることはいいことだと思っている。私の理想は、こども版は子どもたちに作って編集してほしいと思っている。こども版が素晴らしいからこそ、伝える大切さをこれからブラッシュアップしていただきたい。安城市を良くしていくために作るので、どこまでできるかはともかく、伝える・届けるっていうことを、理想的なことはできないが一工夫していただきたいというのが最大の感想である。

4 その他

<説明事項>

【事務局】

次回の環境審議会は、令和8年3月17日(火)午後3時からを予定